

教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。

2016(28)年 週 報

11月13日

「悪霊との戦い」

第2聖日

第3481号

聖
言

私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。

エペソ6:12

⑩ 主の弟子となる

第三課 基本原則 鍵となる引用を読んで考えましょう
トッドはデイダケーの中の七つの重要な命題をあげています。

一、新約聖書クリスチャンは行いを改めるよう求められています。たとえば、パウロはエペソ人への手紙で次のように書いています。「人を欺く情欲によって滅びて行く古い人を脱ぎ捨てるべきこと、またあなたがたが心の霊において新しくされ、真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着けるべきことでした」(エペソ四ノ二二〜二四、参照ローマ二ノ一、二、一三ノ一〜一四)。

二、新しい生き方に代表される徳が示されている。「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です」(ガラテヤ五ノ二二、二三、参照コロサイ三ノ一二)。

三、クリスト者共同体の基本的な単位である家庭での、クリスチャンにとってふさわしい関係が説明されている。「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。・・夫たちよ。クリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。・・子どもたちよ。主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことだからです。(エペソ五ノ二二、二五、六ノ一、参照コロサイ三ノ一〜二一、一ペテロ三ノ一〜七(C、B、T、E主の弟子)

祈りのお願ひ

教会の後継者、神学生があたえられるように
一つ心になつて互いに従順に神と人々に仕えるように

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一六年一月六日午前二〇時 礼拝 山本稔牧師

「クリスチャンの戦い」

「終りに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。」(エペソ六ノ一〇)

10「終りに言います」ということばで、パウロはこの書簡を締めくくる部分に入る。パウロはキリストにある神の目的の偉大さ、神の召しの栄光、またそこから生まれてくる生き方について語ってきた。個人的な生き方、クリスチャンの共同体の中での交わりにおいての生き方、そして、より親密な集まりである家庭においての生き方の規範を示した。しかし彼は、そのような生き方は、霊の戦いなしにいきられないところに、読者の注意を促そうとしている。その戦いの激しさを、自分の経験から、より強く自覚するようになったのである。この戦いにおいて最も必要なものは、神の力である。「強くありなさい」あるいは文字通り「力づけられなさい」。人は自分自身を力づけることはできない。力づけられなければならぬ。そしてそれはギリシヤ語の時制(現在の命令が示すように、一度だけでなく継続的である。さらにパウロは「主によって」ではなくそれだけでも十分な真実であるが「主にあって」と再び言う。主との一体の中で生かされているとき、主のみこころと恵みの範囲の中で、力のなさによって失敗することはない。「若い者たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが強いものであり、神のみことばが、あなたがたのうちにとどまり、そして、あなたがたが悪い者にうち勝ったからです。」(「ヨハネ2:14)。主を離れては、クリスチャンは何もできない。「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、私もその人の中にただまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがた

は何もすることができません。」(ヨハネ15:5)。しかし、

「その大能の力」は与えられうる。このことばは1:19で使われた四つの単語のうち二つの語を思い起こさせる力、全能とそしてダイナミートを動詞として使っている。そして繰り返すことによって、先の箇所を目を留めたように、打ち勝つ。勝利ある力の源である神に同じ強調点を置いている。(ティンデル聖書注解より)

二〇一六年一月九日午後六時半 祈祷会 山本稔牧師

「風を蒔いてつむじ風を刈り取る」

「彼らは風を蒔いて、つむじ風を刈り取る。麦には穂が出ない。麦粉を作れない。たといでてきても、他国人がこれを食べ尽くす。」(ホセア八ノ七)

「風」は、むなしく空虚であることお象徴し(イザ四一ノ二九、ヨブ一五ノ二、伝道一ノ一四、一七)、「つむじ風」は主の怒りを表しています(イザ二九ノ六、六六ノ一五、アモス一ノ一四)、むなししいものを蒔いたので実を結ばないという農作のたとえは、風が象徴する偶像礼拝と、つむじ風が象徴する神のさばきを説明します。すなわち、イスラエルが豊かさを願って行ったむなししいこと、つまり子牛の偶像礼拝のために彼らが得るようになったことは、他国人が彼らを「食い尽くす」ことに至る。つまりイスラエルの滅亡であるということです(七)、そのため、イスラエル自身が、今たアッシリヤに「のみこまれ」ます(八)。イスラエルはアッシリヤに助けを求めましたが、イスラエルは、近隣諸国からの役に立たない器のように扱われ、孤立してしましました。(リビングライフより)